



働き“場”改革

Vo.001
TAKE FREE

P 2~3

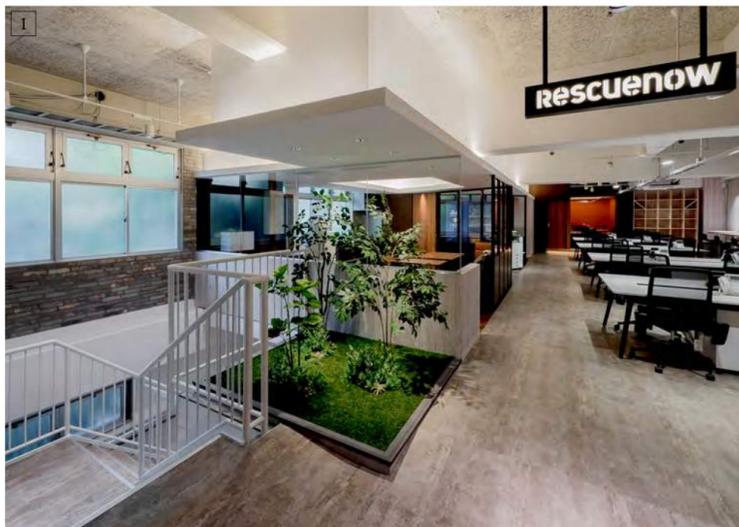
施工事例

Rescuenow / Advanced Planning / RAVEN / CFP consulting

P 4

UP Letter / UP 公式 LINE スタンプ「現場猫」/LAFOOL 健康営業で業績アップ？

セミナー広告・オフィスのシカケーリクルートに強いオフィスはこれだー

管理部門 部長代理
筒井正彦氏

My favorite space

TOKYO

Rescuenow

24時間365日、世界中を飛び交う情報のなかから災害や事故、テロなどの情報をいち早く収集し、クライアントのニーズに応じて提供する。それがレスキューナウの役割だ。そのコアとなるオフィス「レスキューナウ危機管理情報センター RIC24 (RESCUENOW Information Center 24)」のたたずまいは一般的なオフィスのそれとは大きく異なる。シアター型に配置されたデスクの正面にはモニターが並び、気象情報や地震情報、放送中のニュース番組などがリアルタイムで映し出されている。オフィスというよりは、指令室といった方がしっくりくる空間だ。RICは、災害時などの事業継続性確保のため都内と北陸に1か所ずつ設置されている。なかでも昨年7月にリニューアルを遂げた都内の第1RICは立地からして独特だ。都心からほど近い神社の境内、傾斜地に立つ本殿の脇にある駐車場の真下にある第1RICは秘密基地感たっぷりだが、ここに拠点を構えたのはそれが理由ではない。「ここはもともと神社のお神輿など、大事なものをしまっておく宝物殿として使われていたそうです」と話すのは、レスキューナウ管理部門部長代理の筒井正彦氏。約400㎡の床面積は情報センターやオフィスを設けるには手ごろな広さ。倉庫として建てられたため構造も堅牢で、傾斜地に立つため窓は少なくセキュリティが構築しやすい。危機管理情報の収集・発信拠点として、これ以上ない物件といえる。現在の場所では2001年に開設されたセンターも設備更新時期が近づき、近年頻発

医療機器から鉄道運行まで、さまざまな分野のビジネスをIT制御技術で支えるアドバンスドプランニング。落ち着いたブルー系のカラーを基調としたいまのオフィスに移転したのは今年の2月。同じビルの8階に入っていた旧オフィスがスタッフの増員などもあって手狭になり、移転も考えたが受着あるビル内への移転を選んだ。新しいオフィスのコンセプトは「働きたくなるオフィス」。以前に比べ2倍以上になった面積をどう活かすか。考えたなかで生まれたのが、リクルーティングにもつながるオフィスという概念だ。新しいオフィスで働くのは約40人。そのほとんどが開発スタッフだが、IT系人材は数年来の人手不足がつづく。「優秀な人材を確保するためには、オフィスに来た就職希望者を『ここで働きたい』と思わせなくてはなりません」そう話すのは、アドバンスドプランニング代表取締役の今井一範氏。「そのためにはデザインも含めた清潔さ、機能、そして可能性を感じさせるような余裕も大切です」と続ける。清潔感を感じさせる色遣いでラボの雰囲気を出したのは廣川未希氏。美大出身という経歴を活かし、カラーコーディネートからオフィスファニチャーまで、意匠に関係するものはすべて廣川氏が選んだという。「大変でしたが楽しかった」と話す廣川氏。今井氏は「ひとつ選ぶたびに予算が膨らんで」と応

YOKOHAMA

Advanced Planning Corp.



代表取締役 今井一範氏

My favorite space



総務部 廣川未希氏



NAGOYA

RAVEN

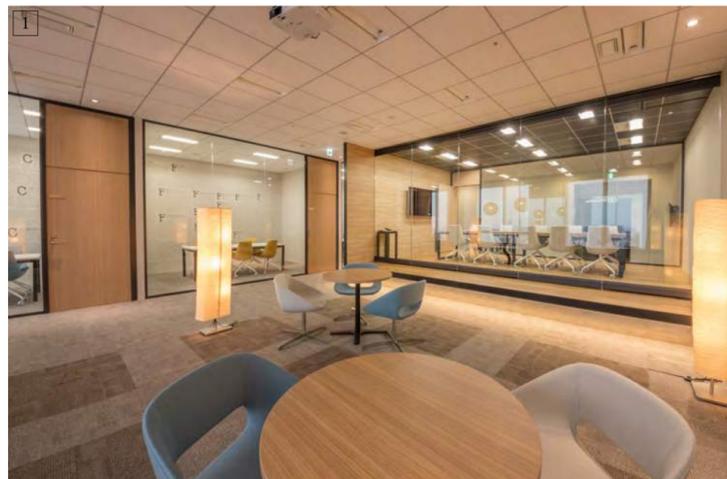
【Q1】どのような思いから新設プロジェクトに踏み切りましたか？また、開設して良かった点は何でしたか？【A1】名古屋にオフィスを新設するまでは、カフェクライアント先でバラバラに仕事をしており、社員同士で集まる場がありませんでした。オフィスができたことにより、コミュニケーションの場ができ、社内文化の醸成も自然と進んでいると思います。時にはお酒も交えながら、意見交換や活発なディスカッションができるようになりましたし、近くの壁面ホワイトボードを活用しながら、自然発生的な議論が生まれたりもしています。【Q2】複数社コンペの中で弊社を選んでいた理由は？【A2】4社にお声がけし、各社それぞれのご提案をいただいた中で費用面、デザイン面など、ご提案内容を総合的に比較して判断しましたが、御社にお願いしたいと考えた理由は、提案段階でのデザインはもちろん、進め方や費用面で細かく提示いただき、今後の進め方のイメージがつかやすかったことが非常に大きかったからです。当社にとっても新規開設は初めてのことであったので、安心感がありました。最終的には全員で飲みながら業者を決定しました(笑)【Q3】オフィス開設後、社員の雰囲気は変わりましたか？【A3】明るいので居心地よく働きやすいオフィスだと思いますし、こういうオフィスで働いているという共通項ができたことで、社内のコミュニケーションも増えたと感じます。スペースによって機能が違うので、用途によって使い分けができることも助かっています。中にはバーカウンススペースを自動化している社員もいます。【Q4】弊社とプロジェクトを進める中で良かったと思う点がありますか？【A4】追加要望や修正要望に対しても、何度でも足を運んでいただいて丁寧に対応いただいたので、本当に感謝しています。

COMMENT:「オフィスっぽくないオフィスを作りたい」とのご要望からスタートした本プロジェクト。社員の方に自由に楽しく働いてもらいたいという山田社長の「思い」を具現化してお手伝いをさせていただきました。社名の由来である「ワタリガラス」から着想を得て、コンセプトは「船」に決定し、ああでもない、こうでもないとお打合せした時間が非常に楽しく、印象に残っています。限られたスケジュールでのプロジェクトでしたが、皆様の意思決定の速さに毎度助けられておりました。本当にありがとうございました。(名古屋営業所所長牧野)

【Q1】今回の移転プロジェクトに掛けた思いはどのようなものでしたか？【A1】とにかく「真面目」というイメージをぶち壊したかったんです。もちろん、これまでもこれからも、真面目な集団ではあるのですが、もっとぶっ飛んだイメージが欲しいなと。どんな会社になりたいかを社内で話していたところ「楽しく仕事したいよね」「最先端のことをやる会社で働きたい」「カッコいいと言われたい!」というような意見が挙がり、「楽しい×新しい=カッコいい」という、これからのCFPコンサルティングのコンセプトが生まれました。【Q2】複数社コンペの中で弊社を選んでいた理由は？【A2】各社、こちらのリクエストにきちんと応えてくれる提案を下さいました。ただ、御社はこちらのリクエストに全て応えてくれた上さらに、その上のアイデアを出してきてくれたんです。なるほど!と衝撃を受けました。そのアイデアを現実に落とし込んだ「空中会議室」が、かっこよかった。その分、他社より工事コストがネックでしたがそこは頑張っていたことにして、ぜひお願いします!という感じでした。【Q3】新しいオフィスでの実際の使われ方はどんな感じでしょうか？【A3】狙い通り、みんな自由に使っています。特にカフェエリアの影響はとて大きいですね。前のオフィスではオープンな雰囲気を出せていなかったのですが、このカフェができたことで一気に開放的なイメージになりました。よく社内勉強会や外部からのセミナーなど開催するのですが、開催する側も参加する側もいい意味で気軽に動けるようになりました。休憩や雑談の延長に打ち合わせや勉強会がある、そんな感じですね。構えた感じではなくて、フリーな空間があることが、想像していた以上にいろんな活動を生んでいます。【Q4】御社が思う「オフィスデザイン」って何でしょうか？【A4】オフィスは、仕事をするだけの場ではなく(人が集まる場)だと思います。今回のオフィスで盛り込んだ色々な仕掛け、例えば発表の時に緊張感が保たれるステージだったり、マンガも読める芝生や散って隠れることのできる集中ブースだったり、機動性抜群なスタンディングテーブルだったり活用されていくことで「CFPコンサルティングってこんな会社」っていう共通認識が自然と社員みんなに身に付いていっています。採用活動でも「こんなオフィスで働きたい」という声が聞かれるようになりました。オフィスデザインが会社選びの大きな要因になっているんだと、改めて感じています。

CFP consulting

TOKYO



UP Letter

- ① 最近嬉しかったこと
- ② おススメのオフィス家具

①先月、わがままボディを卒業するべく自宅付近にオープンした24hジムに通い始めました。ボディメイクを目的にトレーニングに励むこと1ヶ月。体重は着々と落ちていることは喜ばしいですが（見た目変化なし）、何より体力が付き、疲れにくいカラダに変化している気がします。肩こりも改善されたので、今年の夏は仕事もプライベートもよりアクティブになれそうです☆(プランナー中西)

UP SHINJUKU



プランナー中西

②ワークチェア「ing(イング)」(コクヨ)体の動きに合わせて座面がスイングしてくれる優れたものです。なんとレバー調節不要で、椅子の方からどんな体格にもフィットさせてくれる新感覚のチェアです。さらにカラー何のラインナップも可愛い。もはや「座る」は「止まる」ではない！ぜひ一度お試しください！(プランナー小山)



プランナー小山

①先日、林田所長(38歳)の誕生日祝いを営業所スタッフで行いました。所長の故郷・熊本にちなみ「くまもんケーキ」をプレゼント。とっても喜んでくれました！昨年7月にUP横浜を立ち上げて早1年。さらに勢いとパワーを増していきたい横浜スタッフ一同です。(プランナー和田)

UP YOKOHAMA



林田所長(独身)

②ワークチェア「Sylphy(シルフィー)」(オカムラ)UP横浜でも愛用中！背中のカーブに合わせて背の形状を変えることができるので、包み込まれる優しい座り心地です。座面のクッション性も心地よく、長時間のデスクワークでも疲れにくいと感じています。(プランナー和田)



プランナー和田

①最近UP名古屋にもサポートに来ているUP新宿の三木谷MGR。三木谷MGRは北海道～福岡まで出張が多く、名古屋に立ち寄った際にはご当地土産を買ってきて下さいます。入社一年目、仕事での成長も著しい(はず！)ですが、美味しいお土産で体重の増加も止まりません！僕もいつか全国に足を運び、その場所のお客様に寄り添った提案ができるよう精進していきたいです！(プランナー吉田)

UP NAGOYA



プランナー吉田

②ハイバックソファ「CALMS(カームス)」(相合家具)ハイバックには3段のパネルがついています。1段目・3段目は吸音パネル、頭の高さにある2段目は調音パネルになっていて、外からの音を吸収しながら座っている人同士の声を調音してくれるので、小さな声でも聞き取りやすいです。パブリックスペースにパーソナルな空間を創る際におすすめです。(プランナー吉田)



三木谷MGR

健康経営で業績アップ？

健康経営という言葉をご存知でしょうか。企業で働く従業員の健康管理を経営的な視点でとらえ、その向上を図っていくという考え方です。従業員の健康は、私生活の質のみならず生産性の向上にもつながることから多くの企業が実践し始めており、最近では働き方改革の一環として導入されることも増えてきました。では従業員の健康を維持・向上させる企業経営とはどのようなものなのでしょうか。基本的な流れは、3つのステップに集約することができます。

一つ目のステップが、従業員の健康状態の把握。年に一度の健康診断で終わり、ではなく、常に状態を把握する必要があります。次に、その健康状態が仕事にどう影響を与えているかを検証します。最後に改善ポイントを洗い出し、ひとつひとつ実践していけば従業員の健康状態は改善、経営も上向き、となるわけです。こう書くとも簡単そうに感じるかもしれませんが、実際にそううまくいくでしょうか？ おそらくほとんどの企業が、難しいと感じることでしょう。実際に健康経営を取り入れより効果的に実践していくためには、高度な知識とノウハウを持った専門家のアドバイスが必須とされているのです。こうした要望を受け、企業の健康経営をサポートする専門家は増加傾向にあります。2011年からサポート事業を展開している株式会社ラフール(東京都)によると、成功の秘訣は「継続性」。大切なのは健康状態を改善するための対策を講じた後、立ち止まらずに検証を行い更なる改善を図ることなのです。従業員の健康状態を把握しデータとして蓄積することで、業務や働き方の変化による健康への影響にもより早く対応できるのです。そして昨今、健康経営とともに注目されているのが「メンタルヘルス」です。いかに仕事のストレスを減らすかという課題に対し、さまざまなアプローチで解決をはかります。ラフールではストレスチェックから従業員研修、カウンセリングや医師による面接までを体系化。メンタルヘルスを人材マネジメントの基幹に位置づけることで、より大きな効果が期待できるとしています。成長に伸び悩む経営者の方、まずは手軽に従業員のストレスチェックを取り入れてみてはいかがでしょうか。健康経営が業績アップの決め手になるかもしれません。



現調!

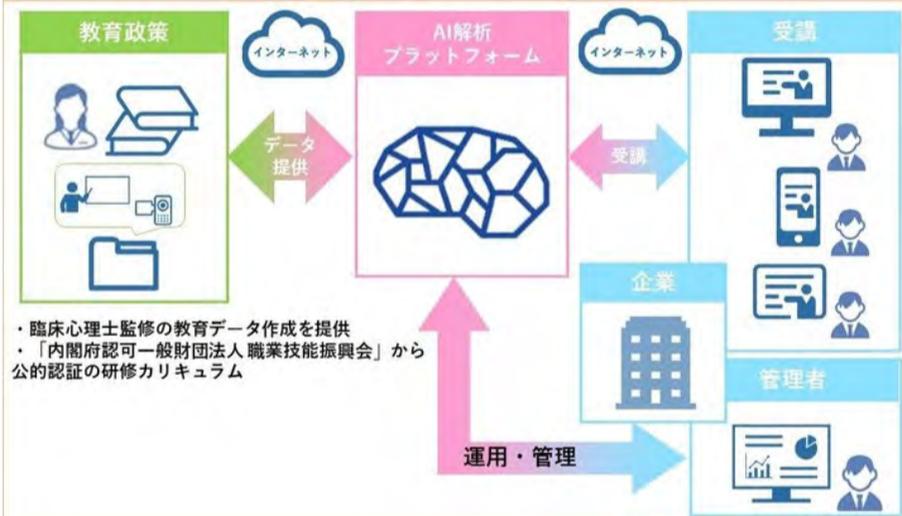
UP公式LINEスタンプ「現場猫」

工事の現場監理するとても可愛い猫のスタンプです。建築・内装設計・工事に従事する方はもちろん、セリフ少ないのでプライベートでもお使いいただけます。ぜひQRコードよりCheck it out!



LAFOOL eラーニング

AI解析プラットフォームにより最適な教材を提供



メンタルヘルスに特化したAI解析のプラットフォームを持つラフールは、ヘルスケアビックデータをAI解析し、日本で唯一国認可のメンタルヘルス対策をeラーニング化した「LAFOOL eラーニング」を開発。個人や組織単位での解析に基づいて、的確な教材や対策ソリューションを提供します。ラフールが提供するストレスチェックや「LAFOOL eラーニング」に関するお問い合わせは(株)アーバンプラン(03-5909-0515)まで。

オフィスのシカケ

ーリクルートに強いオフィスはこれだ！ー

【会場】〒105-0021
東京都港区東新橋1-1-2 アソルティ東新橋4F



- 都営大江戸線・汐留駅から徒歩2分
- JR新橋駅 銀座口から徒歩3分

【参加費】無料
【定員】30名
【申込み方法】
ご興味がある方は下記までご連絡ください。
ご相談のみでも大歓迎です！
TEL:03-5909-0515 MAIL:info@urban-plan.com
締め切りは、8月20日(月)12:00までとさせていただきます。
定員に達した場合は、その時点で締め切らせて頂きます。

2018年 8月 24日 [金]
◆時間 15:00 ~ 16:30
(受付) 14:30 ~

アーバンプランが手掛けた働きやすい「オフィスのシカケ」をストーリー仕立てでご紹介。実際のお客様とのやりとり・デザイン決定までのプロセスやその後のアフターストーリーを交え、リクルーティングに役立つ要素を詰め込んだ内容となっております。
また、数字から見えるオフィスの実態をお伝えする事で、皆様のオフィス開拓に役立つ情報を発信。情報だけでは中々見えにくいイマドキのオフィスを、是非このセミナーで体験してみてくださいは如何でしょうか。

